

固定電話変革

ケーブルテレビ アーキテクト 上山裕史

今号はNTT固定電話の変革を紹介します。

私たちケーブルテレビ局の技術者は、プライマリIP電話やインターネットなどミッションクリティカルな双方向アプリケーションに加え、コミュニティチャンネル(コミチャン)放送のためのデジタル放送機器の安定動作に目を光らせています。

今回はNTT固定電話の変革を紹介します。ケーブルテレビ局が導入してきたプライマリIP電話は、NTT東西が提供する固定電話をターゲットにして、料金低廉化による置換で導入数を増加させてきました。ターゲットとなってきたNTT固定電話が、2024年1月1日(予定)に変更が行われます。大きな変更点は通話料金です。県内通話の4区分と県間通話が統一され、全国一律3分あたり9.35円になります。通話の区分と電話会社をひも付けていたマイライン制度で、KDDI、ソフトバンク以外を指定したユーザは、NTT東日本またはNTT西日本の通話サービスに移行します。移行によりNTT東西の料金が低廉化して、プライマリIP電話のコストメリットが縮小することがわかります。

2024年以降の固定電話

通話の種類	通話料
県内通話	区分内
	隣接〜20kmまで
	20kmを超え60kmまで
	60kmを超え
県間通話	全国一律 ^(*) 9.35円/3分
国際通話 ^{(*)2}	全国一律 ^(*) 9.35円/3分
携帯電話への通話	9円(税別)/90秒 (アメリカ合衆国 ^{(*)3} の場合) 国・地域別の国際通話料金一覧はこちら
IP電話(000番号)への通話	17.6円/60秒(税別と同額)
IP電話(000番号)への通話	11.55円/3分

図1:2024年の電話料金

図1にNTT西日本のホームページから引用した2024年の電話料金を示します(*1)。また、図2に設備切替前後の違いを引用します(*2)。ユーザ側はハードウェア変更がありません。ひかり電話で使っているSIP(Session Initiation Protocol)サーバを流用することもわかります。本誌バックナンバーのNo.77 ナンバーディスプレイ①(2015年9月号掲載)(*3)と、No.78 ナンバーディスプレイ②(2015年10月号掲載)(*4)で紹介したEMTA(電話用ターミナルアダプタ)と、電話機との間の信号のやり取りがあります。あたかもEMTAがNTT局舎にあるようなイメージに考えれば設備切替後と同等になります。

1980年代に新電電が登場し、市外通話電話料金の値下げ競争が起こりました。その値下げ競争が収斂する変化が迫っています。料金は下がっても警察・消防に位置情報を伝える電話と

して、これからも電気通信事業法の規制のもと、高い信頼性を確保していかなければなりません。ケーブルテレビ局はHFC、FTTH方式の伝送路保守とセントラ設備の高いレベルの保守が求められます。

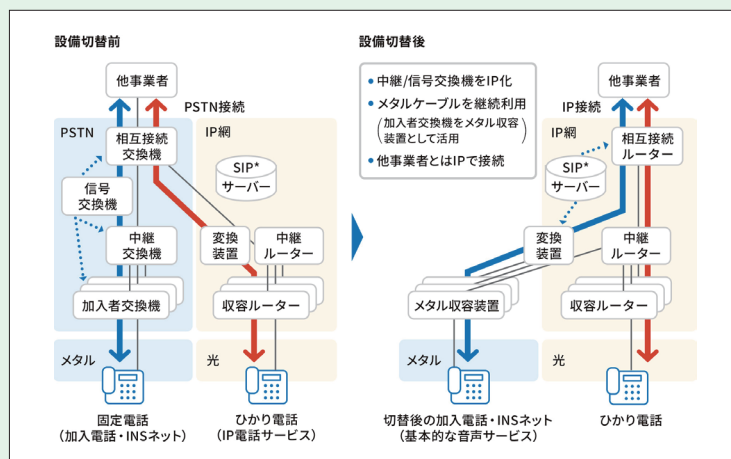
(*1) <https://www.ntt-west.co.jp/denwa/2024ikou/price.html>(*2) <https://www.ntt-west.co.jp/denwa/2024ikou/outline.html>(*3) <https://satemaga.co.jp/wp-content/uploads/cabletec/1509.pdf>(*4) <https://satemaga.co.jp/wp-content/uploads/cabletec/1510.pdf>

図2:設備切替前後の違い